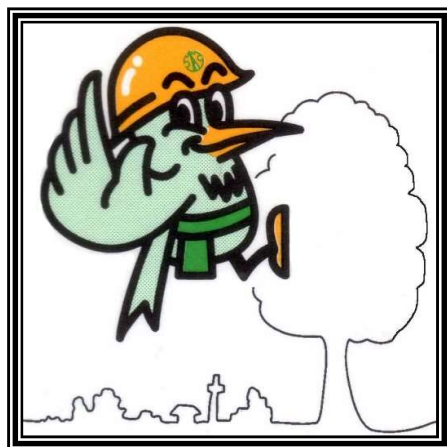


環境経営レポート（令和4年度）

[対象期間：令和4年5月1日～令和5年4月30日]



シンボルマスコット Mr. KENTA

目次

I	環境経営方針	1
II	組織の概要	2
III	エコアクション21実施体制	3
IV	環境経営目標とその実績	4
V	環境経営計画、取組結果とその評価、次年度の目標及び取組内容	7
VI	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無	9
VII	代表者による全体評価と見直しの結果	

作成日：令和5年12月



吉川建設株式会社

I 吉川建設株式会社 環境経営方針

● ごあいさつ

地球規模での環境問題は、益々深刻になってきており私達一人一人が将来に向けて4R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）を提唱していかなければなりません。近年建設業は循環型社会に取り組んでいます。吉川建設㈱も日々率先して「環境配慮行動」をモットーに社会から愛される企業として邁進してまいります。

代表取締役 吉川 功一

～ 環境理念 ～

吉川建設株式会社は、世界規模で深刻化する環境問題を真摯に受け止め、総合建設業として事業を展開する上で建設活動による環境への影響と経営における課題とチャンスを的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で、全社員一体となりベクトル合わせ、自主的、積極的に環境保全を考え、SDGs達成に向けた行動をすることを誓約します。

～ 行動方針 ～

1. 地球温暖化を抑制するために、二酸化炭素の排出量削減を推進します。
2. 限りある資源の有効活用のため、廃棄物削減と資源の有効利用を推進します。
事業規模（令和3年度）
3. 水資源の有効活用のために、節水及び適正な排水処理に取り組みます。
4. 環境に配慮した工法、施工の推進に努めます。
5. 騒音・振動・粉じん・濁水等を低減し環境保全に配慮した事業活動に取り組みます。
6. 事務用品、再生建設資材などのグリーン購入を推進します。
7. 地域での清掃ボランティアなどの社会貢献活動を積極的に取り組みます。
8. 環境関連法規制などを遵守します。
9. 環境経営目標を定め、定期的に見直しを図り、継続的改善し環境保全活動を展開します。
10. 当社環境経営方針を全社員及び当社に関連する各企業の人達に周知させ、環境経営方針の理解と環境保全に関する意識の向上を図ります。
11. 環境経営レポートの公表など、地域との環境コミュニケーションに努めます。
12. 化学物質の削減に努めます。
13. 自らが施工・販売・提供する製品及びサービスに関して取り組みます。
14. 社員が生き生きと働ける職場環境を整備します。
15. 当社は、社会インフラの基盤となる土木工作物、地域社会をより豊かにする建築物をお客様に提供するため、長年培った技術と最新技術を活用し建設工事の効率化に取り組みます。
16. SDGsの内容を理解し、持続可能な社会の発展に努めます。

制定日：平成21年10月1日

更新日：令和4年5月1日



吉川建設株式会社

代表取締役 吉川 功一

Ⅱ 組織の概要

1 名称及び代表者名

吉川建設株式会社 代表取締役 吉川 功一

2 所在地

〒036-8173

青森県弘前市富田町174番地



3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 専務取締役 吉川 裕之

環境事務局 担当者 総務部長 佐藤 研吾

連絡先

TEL : 0172-33-2181

FAX : 0172-36-8810

E-mail : info0368173@yoshikawa174.co.jp

4 事業活動の内容

特定建設業 青森県知事（特-4）第859号

建設業の種類 土木工事業／建築工事業／大工工事業

とび・土工・コンクリート工事業／舗装工事業／防水工事業

内装仕上工事業／水道施設工事業／解体工事業

5 事業規模（令和4年度）

設立 昭和25年1月28日（1950年） [営業年数：74年]

資本金 7,200万円

売上高 7億6489万円

従業員数 29名

延床面積 468.57㎡（RC造+S造）

工事件数 231件

6 事業年度

5月1日～4月30日

7 対象範囲（認証・登録範囲）

吉川建設株式会社の全組織・全活動

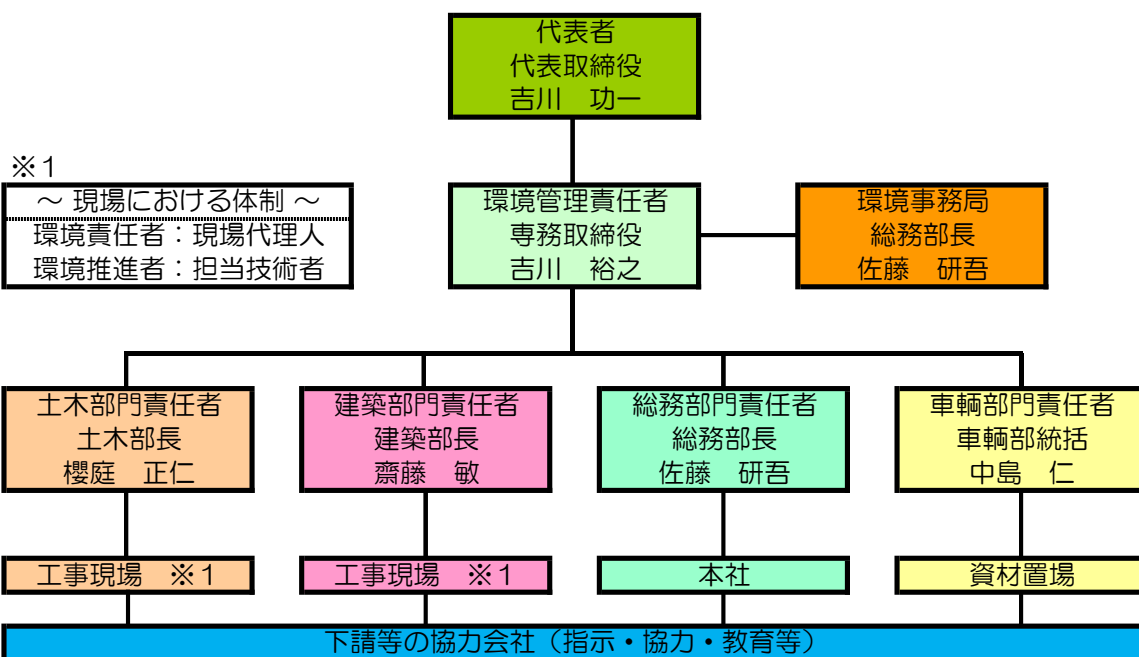
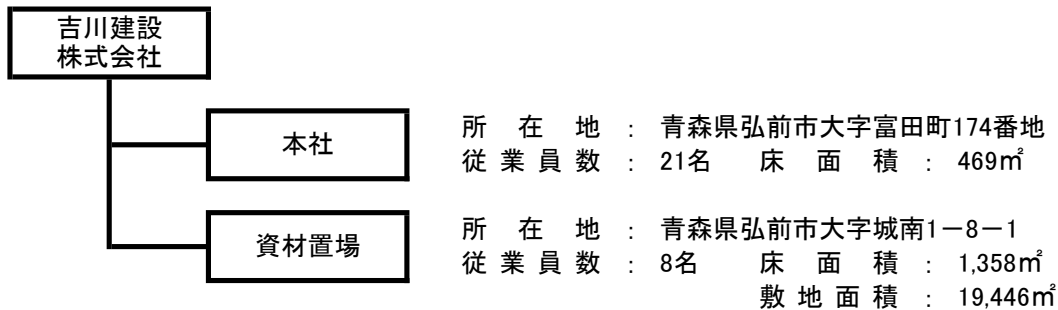
8 環境経営レポートの対象期間及び発行日

対象期間 令和4年度（令和4年5月1日～令和5年4月30日）

発行日 事業年度終了後

Ⅲ エコアクション21実施体制

◆ 吉川建設株式会社 全組織・全活動 ◆



◆ 環境経営システム 役割・責任・権限 ◆

代表者 統括責任者	● 環境経営に関する統括責任。 ● 環境管理責任者を任命。 ● 環境活動書類の承認。 ● 経営における課題とチャンスの明確化	● 必要資源（人材・費用・技術）の用意。 ● 環境方針の策定・見直し・周知 ● 全体評価より環境システムの見直し
環境管理責任者	● 環境システム総責任者として全体を把握・指揮。 ● 環境活動の取組結果を代表者及び統括責任者へ報告。	
環境事務局	● 環境管理責任者の補佐、EA21の事務局。 ● 全体計画の原案立案 ● 環境システム運用上の事務管理	● 各種文書の作成・管理
部門責任者	● 部門別計画立案 ● 教育訓練の実施 ● 実施状況の確認・記録・報告	● 部門別環境経営システムの実施。 ● 問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	● 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ● 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。	

IV 環境経営目標とその実績

1. 主な環境負荷の実績

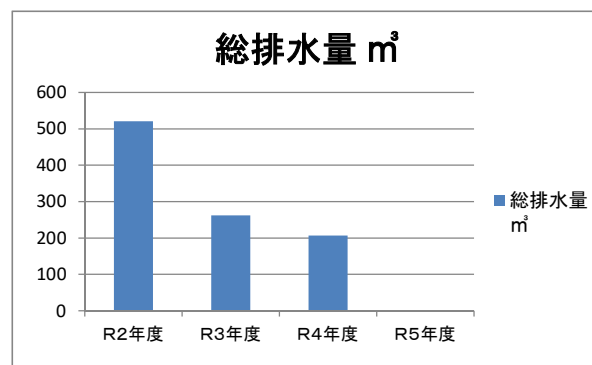
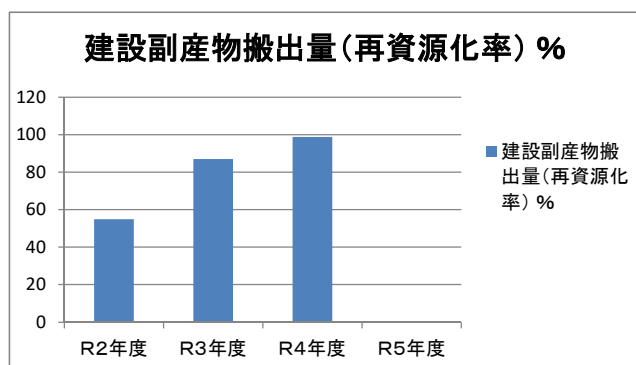
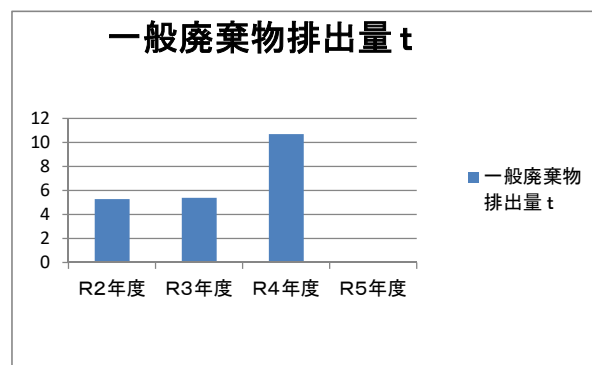
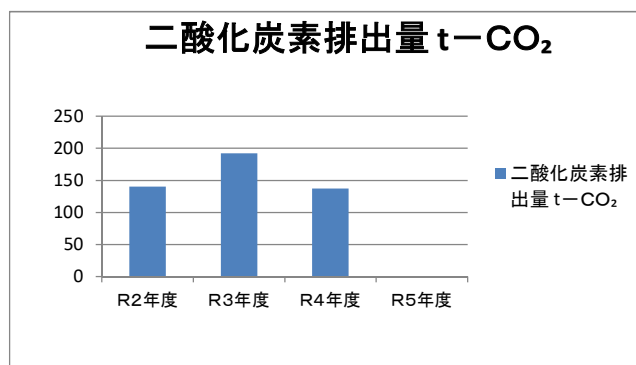
当社は、主に土木工事業、建築工事業などを中心とした総合建設業に係る事業活動を行っており、環境負荷は、表1の通りです。

二酸化炭素排出量については、車両のガソリンや建設機械の軽油によるもの等が主なもので、令和2年度140.039t-CO₂/年を基準値としています。

表1. 主な環境負荷等の実績

項目	単位	令和2年度 (基準年度 値)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
二酸化炭素排出量	t-CO ₂	140.039	192.093	137.238	
一般廃棄物排出量	t	5.300	5.400	10.715	
建設副産物搬出量(再資源化率)	%	54.9	87.0	98.8	
総排水量(水資源投入量)	m ³	521	262	207	
化学物質使用量	kg	※化学部物質を極力含まない塗料、接着剤などを使用している。また、原則現場での保管はせず、使用時に下請け業者にて搬入し施工を行っている。			
グリーン購入量(環境物品購入)	品目数	-	-	-	
環境に配慮した施工	件数	-	-	-	
地域貢献活動	件数	2	2	2	

(注) 二酸化炭素排出量の算定は、令和3年提出用の東北電力㈱の排出係数 0.521kg-CO₂/KWhを使用。



2. 環境目標の設定（全社）

当社では、事務所及び建設現場等における環境目標を設定し、環境負荷削減等に取り組んでおります。表2は、全体の環境目標を掲載しました。

表2. 環境目標(全体)

コア指標	環境方針	環境目標項目	削減率又は増加率（％）	基準年度	年度毎目標値 （基準年度に対する削減(増加)率）			中長期の目標
			単位	基準値	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 3年 ～R 5年
二酸化炭素 排出量	省エネルギー の推進	電力の削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	3
			kwh	40,575	40,169	39,764	39,358	39,358
		灯油の削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	6
			L	9,145	9054	8962	8871	8,871
		都市ガスの削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	6
			Nm³	103	102	101	100	100
		L P Gの削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	6
			kg	0	0	0	0	0
		ガソリンの削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	6
			L	18,067	17,886	17,706	17,525	17,525
	軽油の削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	3	
		L	20,926	20,717	20,508	20,298	20,298	
二酸化炭素排 出量の削減	二酸化炭素排 出量の削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	6	
		kgCO₂	140,039	138,638	137,238	135,837	135,837	
廃棄物排 出量	一般廃棄物の 削減	ごみの削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	3
			kg	5,300	5,247	5,194	5,141	5141
	産業廃棄物の 削減(自社 分)	最終処分（埋 立）量の削減	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	3
			t	2,257.96	2235.38	2212.80	2190.22	2190.22
自らが施工・販売・提供す る製品及びサービスに関す る項目	建設リサイクル 率の向上	再資源化率	R 2年度	90	90	90	90	
		（％）	54.9					
	環境に配慮した 施工の推進	-		・（行動目標）建設現場においては、環 境に配慮した作業・施工を推進し、定 期的に確認します。			左に同じ	
		件数						
総排水量	節水	節水	削減率（％）	R 2年度	1	2	3	6
			m³	521	516	511	505	505
化学物質		化学物質の管理 推進			・（行動目標）化学物質については、漏 洩等が無いよう適正に管理し、定期的 に確認します。			左に同じ
グリーン購 入	グリーン購入 の推進	環境物品等の購 入・使用を推進	-		・（行動目標）事務用品等の使用・購入 に当たっては、環境物品を選択するよ う努めます。			左に同じ
環境物品購入数								
地域貢献	地域貢献活動 の推進	清掃活動等	増加率（％）	R 2年度	-	-	-	-
			件数	2	※現場物件数に応じて増減あり			

3. 環境経営目標の実績

当社では、事務所及び建設現場、資材置場など別に環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。
令和2年度を基準とし、令和4年度の実績についての評価結果を報告いたします。
二酸化炭素排出量は基準年より大幅に増え環境経営目標を達成することができなかった。
各項目について、灯油、LPG、ガソリン、軽油、一般廃棄物については、環境経営目標を未達成であった。原因については下記の通りである。

①灯油については、本社では目標値をクリアしたものの、建設現場において多量に使用されたためである。冬季工事の際は品質確保の為に採暖する必要があるが、効率の良い方法を今後検討していきたいと考える。

②LPGについては、基準年の使用率が0であった為、少量使用しただけで目標達成が難しい。今後も使用量を数値で確認し、できるだけ削減を行っていく。

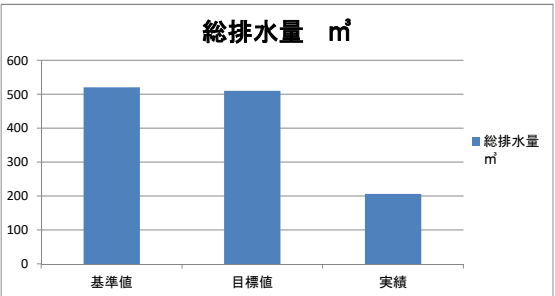
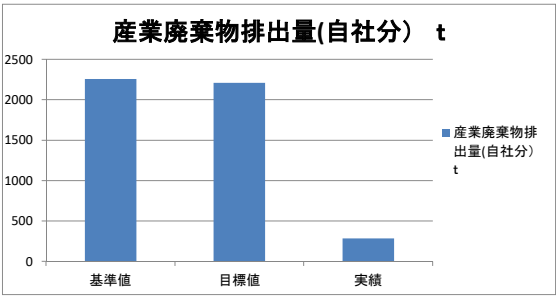
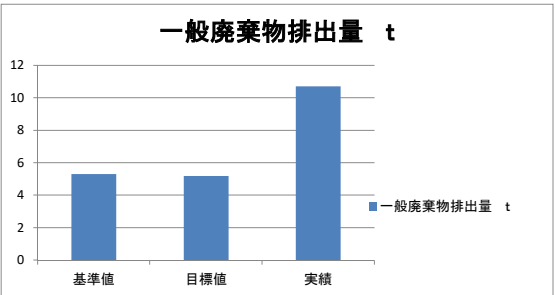
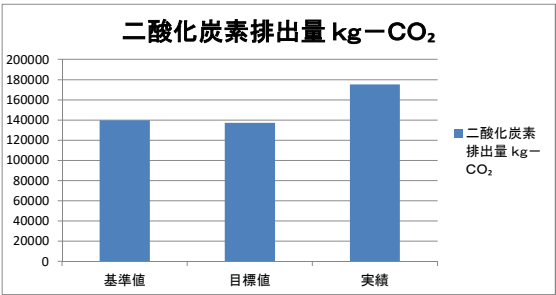
③ガソリンについては、工事が多く、使用量が増えたと推測される。

④軽油については、冬季の除雪機械での使用量が多くを占めている。R4年度は降雪が多く除雪の出動回数も例年以上となる年であった。業務に使用されるものであるので削減は難しいが、除雪機も耐用年数があり更新時期には環境に配慮されたモノを購入し対応していきたいと考える。

⑤一般廃棄物については、事務所ごみの削減は認証当時から行っているため、横ばい数値となってきた。大幅に増えたのは工事現場からの排出であった。削減を図るには抜本的な削減方法が必要となる。

表3. 当該年度の環境目標の達成状況等(全体)

項目		単位	基準値 R2年度	令和4年度			環境目標 達成状況
				削減(増加)率(%)	目標値	実績値	
1. 二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	140,039	2%削減	137,238	175,263	×
	電力使用量	KWh	40,575	2%削減	39,764	27,032	○
	灯油使用量	L	9,145	2%削減	8,962	13,154	×
	都市ガス使用量	Nm ³	103	2%削減	101	62	○
	LPG使用量	kg	0	2%削減	0	50	×
	ガソリン使用量	L	18,067	2%削減	17,706	20,314	×
	軽油使用量	L	20,926	2%削減	20,508	31,400	×
2. 一般廃棄物排出量		t	5.300	2%削減	5.194	10.715	×
3. 産業廃棄物排出量(自社分)		t	2,257.960	2%削減	2212.801	286.255	○
4. 総排水量(水資源投入量)		m ³	521	2%削減	511	207	○
5. 化学物質使用量		kg		・(行動目標) 化学物質については、漏洩等が無いよう適正に管理し、定期的に確認します。			—
6. グリーン購入				・(行動目標) 事務用品等の使用・購入に当たっては、環境物品を選択するよう努めます。			—
7. 自らが施工・販売・提供する製品及びサービスに関する項目	建設リサイクル率	%	54.9		90.0	98.8	○
	環境に配慮した施工の推進	件数		・(行動目標) 建設現場においては、環境に配慮した作業・施工を推進し、定期的に確認します。			
8. 地域貢献活動		件数	2		2	2	○



V 環境経営計画、取組結果とその評価、次年度の目標及び取組内容

環境経営計画については、単年度の環境目標に対応した具体的な取組の内容（達成手段）を表4の通り作成した。
なお、それぞれの計画の責任者と担当者及びスケジュールを定め確実な実行に努めております。

表4. 主な環境活動計画の内容

環境方針	環境目標項目	取組内容	実施状況評価	取組み結果	次年度の目標	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素の削減	①空調の適温化（冷房28℃程度、暖房20℃程度）を徹底している	○	不在時は照明を消灯し、エアコンなどの空調も適温化している。照明もLEDに徐々にしており、環境目標達成となった。	〔ガソリン〕 基準値：40,575 Kwh 削減率：3.0 % 目標値：39,357 Kwh	次年度は、節電、エコドライブ等の取組をさらに強化するとともに、状況をもて本社・建設現場の既存使用機器を更新する等の具体化を図っていく。
		②使用していない部屋の空調を停止している				
		③冷暖房終了時間前に熱源機を停止し、装置内の熱を有効利用している				
		④照明器具については、定期的な清掃、交換を行うなど、適正に管理している				
		⑤LED照明を採用している				
	建設機械等の燃料の二酸化炭素削減	①自社の車両の運転におけるムダな燃料使用をさけるため、ドライブレコーダーなどを導入し、車両の運転における燃料効率の改善を図っている	△	ICT等の最新技術を使用できる現場がなかった。燃料消費の少ない建設機械の使用を心掛け、エコドライブすることで環境目標達成を次回目指す。	〔軽油〕 基準値：20,926 L 削減率：3.0 % 目標値：20,298 L	
		②社用車について、ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、天然ガス自動車などの低公害車への切替えに取り組んでいる				
		③エコドライブなど運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐車車中のエンジン停止など）を励行している				
		④ICTの活用など、既存の工法を変更し、エネルギーの消費を抑えている				
		⑤建設機械（ショベル、ブルドーザー、クレーンなど）の省燃費運転を行っている				
⑥燃料消費の少ない施工方法や作業方法を採用している						
灯油・LPG等の二酸化炭素の削減	①冬季以外は給湯を停止している	△	冷暖房の適切な設定温度管理、不在時のoffを心掛け、設備の定期点検を実施、環境目標達成を次回目指す。	〔灯油〕 基準値：9,145 L 削減率：3.0 % 目標値：8,870 L		
	②給湯設備の配管などを断熱化している					
	③設備の定期点検と予防保全の実施をしている					
廃棄物排出量削減	廃棄物の発生そのものを抑える取組の推進	①社内LAN、データベースなどの利用による文書の電子化に取り組んでいる	×	一般廃棄物の削減について限界に来ており目標を達成できず。産業廃棄物量は仕事量に比例し排出量も変化するが、施工の中で工夫をし削減に取り組んでいる。	〔一般廃棄物〕 基準値：5,300 kg 削減率：3.0 % 目標値：5,141 kg	廃棄物の量を適正に把握していく。また再資源化率に対しても、引き続き分別を徹底し、最終処分量の削減に努めていく。 電子化をより一層促進し、ペーパーレス化を図っていく。
		②打合せや会議の資料などについては、ホワイトボードやプロジェクターの利用により、ペーパーレス化に取り組んでいる				
		③両面、集約などの機能を活用した印刷及びコピーを徹底している				
		④ペーパータオルを廃止している				
		⑤施工方法や作業方法を見直し、廃棄物の発生量の抑制に取り組んでいる				
	再資源化対策の推進最終処分量の削減	①シュレッダーの使用を機密文書などに限り、シュレッダー処理紙のリサイクルに努めている	○	建設現場では分別を徹底し行った。それにより再資源化率98.76%と環境目標達成となった。	〔再資源化率〕 基準値：54.9 % 目標値：90.0 %	
		②発生したごみは可能な限り、圧縮などを行い、減容している				
		③建設発生土の場内利用や、再利用を図る工夫をしている				
		④施工時、作業時における資材ロスの低減に努めている				
	産業廃棄物等の適正処理	⑤施工管理の出来型管理計画時に、設計基準に上乗せした自主基準を設けて、生コンクリートやアスファルト・コンクリートの廃棄を抑制している	○	マニフェストを適正管理している。		
総排水量削減	使用水の削減	①蛇口（水栓）をシャワー型にするなど水量を減らす工夫をしている	○	本社並びに建設現場の年間使用料は目標を達成した。	基準値：521 m3 削減率：3.0 % 目標値：505 m3	工事種別にもよるが、雨水利用が出来る場合は積極的に活用するように努める。また、引き続き節水対策、排水処理について周知徹底をしていく。
		②水道配管からの漏水を定期的に点検している				
		③自動水栓を取付けている				
		④建設現場など（道路路面への散水など）や資機材置場で使用する水を再利用するための設備を設置し、活用している（中水利用）				
		⑤建設機械などの洗車には、排水路の水や雨水などを利用している				
	排水処理、水質汚濁等の防止	①排水への有害物質や有機汚濁物質の混入をできるだけ少なくしている	○	建設工事現場では特に有害物質の流出の可能性も高いことから、河川工事の際は、特に排水には気を付けて施工している。		
騒音・振動等の防止		①低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置などにより騒音・振動を防止し、日常監視及び測定を実施している	○	建設現場の周囲の環境を事前調査し、工事期間中に周辺へ影響のないように施工をおこなっている。	周辺からの苦情ゼロ	今まで通り、建設現場周辺環境に影響が出ないように施工を行う。
		②建設現場などで周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し、施工している				
		③建設現場などで周辺の生活環境に影響の少ない工法を提案し、採用している				
化学物質の適正な管理の推進		①屋外での除草剤、殺虫剤の使用の削減に取り組んでいる	○	化学物質を含む資材は現場保管は極力行わず、必要な時に搬入し協力会社の専用の保管所に置いている。	化学物質の適正管理	化学物質に対する認識がまだまだ薄い為、次年度以降も現場での管理体制を考えていく。
		②危険物に該当しない消毒剤を使用している				
		③化学物質の安全性に関する情報伝達のため、SDSにより管理している				
		④建設現場などで使用する化学物質は、生分解性などの環境にやさしい製品の使用促進を行っている				
		⑤保管タンク、配管などの漏れ防止を実施している				
グリーン購入		①コピー用紙、コンピューター用紙、伝票、事務用箋、印刷物、パンフレット、トイレットペーパー、名刺などの紙について、再生紙又は未利用繊維への転換を図っている	△	出来る限り環境に配慮した商品の購入を心掛けている。	グリーン製品の購入向上	今後も環境に配慮した商品購入を周知を行い心掛ける。
		②環境ラベル認定など製品を優先的に購入している				
		③社用車について、ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、天然ガス自動車などの低公害車への切替えに取り組んでいる				
		④地域産の木材などを積極的に購入し、使用している				
		⑤森林認証などがついた建設資材を用いるよう、グリーン購入を行っている				
環境に配慮した施工の推進		①建築物の老朽化や運用の診断を行い、改善や環境保全設備の見直しを行っている	○	建設現場に立地条件に合わせて、周辺環境に影響のない施工方法を検討している。	環境配慮型施工の実施	今後も建設現場では可能な範囲で施工方法や環境負荷の少ない建築資材を考えていく。
		②建築物・工作物等の長寿命化を指向している				
		③環境負荷の少ない施工や工法を採用している				
		④購入する原材料の仕様を変更し、端材などの削減に取り組んでいる				
社会貢献その他		①SDGsの目標やターゲットを意識して、中長期の経営計画を策定している	○	会社での献血奉仕活動や市内の河川沿いの草刈ボランティアを行っている。	継続して実施	今後も地域に必要なとされる社会貢献を行っている。
		②地域のボランティア活動などに積極的に参加し、協力や支援を行っている				
		③事務所及び建設現場など周辺の景観や生物多様性保全に取り組んでいる				

○：評価出来る、△：ますます評価できる、×：評価できない

環境活動の状況



本社会議での教育



環境活動の取組周知



ボランティア活動(本社周辺ゴミ拾い)



火災消火訓練



不在場所消灯



裏紙再利用ボックス



一般廃棄物分別ボックス



節電・節水ステッカー

Ⅵ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等について一覧表に取りまとめ、遵守状況を確認したところ違反はありませんでした。

また、過去13年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟について、問題ありませんでした。

【環境関連規則】（環境関連法規制などの遵守状況チェック表より抜粋）

法規制	環境活動	遵守状況
建設リサイクル法	書面による届出や報告	○
廃棄物処理法	分別処理とリサイクルの実施	○
フロン排出抑制法	専門業者と打合せの上点検・報告	○
消防法	届出・保管基準の遵守	○

Ⅶ 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクションの認定を受けて今期で14年目の取り組みとなり、職員一同並びに協力業者への環境への理解も深まってきていると考える。令和2年度の基準年と比較し今年度全体的に目標を達成しているもの、していないものが一目で分かり、次年度以降も新たな目標基準を達成すべく削減に取り組んでいく。グラフを見ると、仕事の受注量や工種（内容）、工事場所によって変動はあるが、環境に対する意識も成熟されており、エコアクションの運用が成功していると考える。

このように数値化することで、何気なく使っていた電力や化石燃料、産廃や水資源などを意識することで、循環型社会を形成すると共に、企業としても無駄な経費の削減にも直接繋がっていると考え。

建設業については、年々工事の物件数の減少並びに受注額のダンピング化が進み、削減率が不確定な部分が多い業種であるが、職員それぞれの環境に対する意識の向上を更に徹底し、工事現場での消費量が大多数を占めるため、妥協をすることなく効果・効率が上がることは積極的に考え取り組むようにこれからも発信していきたいと考える。